

好調の中でも人手不足を懸念 企業の効率化を進めることが鍵

全国的に景気も緩やかに回復を続けている中で、東海地方も例に漏れず順調に成長を続けている。そんな状況の中、当地域の現況と今年の見通しを東海財務局・寺田達史局長に話を聞いた。

——二〇一七年度の状況判断について。

寺田 東海四県の経済動向は一七年十月に「緩やかに拡大しつつある」と判断を上方修正し、さらに今年一月「緩やかに拡大している」と修正しました。二期連続で「拡大」としたのはリーマンショック以降初めてのことです。東海経済は着実に拡大してきていると認識しています。

この原動力は、主要産業である輸送機械（自動車）の輸出が堅調の中で国内生産が伸長しているほか、工作機械も好調でした。さら

に三重県の液晶・半導体もこれまでのスマートフォンやパソコン向けだけでなく、AI（人工知能）の進展により自動車や家電にも需要が広がっていることによつて、東海四県全域に好調の波が広がっています。これまでは半導体の生産は好・不調の波が大きくなる傾向がありました。人手不足を解消するための省力化・合理化投資に対する需要増加が見込めるため、生産は更に拡大するものと考えられます。

——一八年の見通しは？
寺田 景気の先行指標である設

備投資は、好調な企業収益を背景に前年比一〇%増となつています。業種別では自動車が構造変化の中で研究開発が進んでいるほか、リニア中央新幹線の工事関連も加わるなど、高水準で推移すると思われれます。

さらに一段と加速するためには、好調な企業収益を背景に雇用や所得環境の改善が進み、それが消費の拡大につながれば好調を維持できると思われれます。

しかしながら、人出不足の解消が鍵となります。現在、愛知県だけでなく三重県や岐阜県の有効求人倍率も高水準で推移しており、愛知県の人手不足がトコロテン式に隣接の県に影響を与えています。東海四県全体の人手不足が供

給制約になってしまふのではと懸念しています。製造業などでは、人手不足が部品不足につながりかねません。需要の伸びに対して人出不足により供給が追い付かず、出荷の減少をもたらすことを危惧しています。

——中小企業については？

寺田 中堅や中小企業も生産は前年比プラスで推移しており、現状、特段の懸念はありません。ただし、自動車産業のEV（電気自動車）化など構造変化の中で、どこまで増産投資するのか、なかなか踏み切れないという声もあります。当局としては中小企業の皆さまが必要な増産投資を行う際に金融面等で支障が出ることをないよう対応することが必要だと考えて